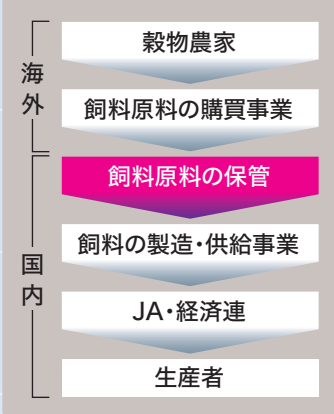


飼料原料・配合飼料物流図



1 ひときわ目をひく港湾荷役機械アンローダー。本船に積まれた約5万tの原料を約7日でサイロへと搬入する事ができる 2 パナマ船籍のバラ積み貨物船。米国ニューオーリンズ港から約35日をかけて航海した 3 内航船岸壁から見た本船荷役の様子 4 本船に積まれたトウモロコシ 5 6 原料はアンローダーからコンベヤを経由しサイロビンへと搬入される



輸入穀物の搬入から出庫まで徹底した品質管理を実現サイロロジスティクスで一貫した物流サービスを

JA全農では、家畜飼料の原料となる穀物を世界各国から調達しています。輸入穀物を国内の港で搬入・保管し、飼料工場に届けるには、徹底した品質管理が求められます。前号までに紹介した飼料原料の海外調達に続き、国内の飼料原料の保管管理についてレポートします。

日本最大級の収容能力を誇るサイロ事業

世界各地から大型船舶によって日本に輸送される家畜の飼料となる穀物。こうした輸入穀物の搬入から、サイロなどでの保管と品質管理、配送システムまでを一元的に管理し、飼料工場などに送り届けているのが、全農サイロ株式会社です。

同社は、東京本社、鹿島・新潟・東海・倉敷・志布志の全国5つの港にある支店で、倉庫業、港湾運送業、貨物運送取扱事業、通関業、埠頭業などを展開しています。

鹿島支店がある茨城県鹿島港は、鹿島臨海工業地帯の中央部に位置し、サイロ会社や飼料工場が集積する日本有数の飼料コンビナートとして知られています。この中でも同支店のサイロ収容能力

「弊社では複数品目の原料を取り扱うため、徹底した管理が不可欠です。IP管理品目の搬入前には、コンベヤやバケットエレベーターなどの搬入ラインを空運転し貨物が残留しやすい部分にはエアを噴射。最終的には人の手で清掃を実施します。またサイロビンや荷役機械なども細部にわたる清掃を行います」（鹿島支店営業部 小川雅也氏）。

同社ではこうした管理のもと、搬入・サイロビン移動・積み替え・出庫の4段階で分別管理の証明書を発行しています。

国内を包括する拠点網でスケールメリットを活かします

全農サイロ株式会社
 ■設立 1968年6月
 ■資本金 13億円
 ■従業員数 164名(2019年4月1日現在)
 年間取扱原料 約400万t
 (5支店合計サイロ収容能力 66万8,875t)



担当者の声



小川 雅也氏
全農サイロ株式会社 鹿島支店 営業部

入社11年目、鹿島支店勤務は4年目で、本船荷役を担当しています。最適な本船荷役プランを立案・実践するのが主な仕事です。本船荷役の早期終了は、穀物コストにかかわるため、適切な情報提供とプランを立案でき、計画通りに作業が完了した時にはやりがいを感じます。畜産農家の皆さまに、より品質の高い飼料をお届けできるよう、搬入から出庫まで、徹底した管理を心がけながら支店全体で業務を行っています。

IPハンドリングと徹底した品質管理で食の安全を守る

同社では1991年から、PHF（収穫後無農薬）トウモロコシ、1998年からPHF+NON-GMO（収穫後無農薬／非遺伝子組み換え）トウモロコシの分別管理を目的に、「IPハンドリング」を導入しています。ここで言うIPハンドリングとは、飼料穀物の栽培から収穫、貯蔵・輸送、配合飼料の製造・供給までの全工程で分別管理を行う、供給システムの事です。

また、防疫面では同社敷地内に入る車両の消毒や構内清掃・消毒などの衛生管理を徹底。保管穀物については、定期的なサンプル採取により品質確認を行うほか、サイロ内の温度を穀温ケーブルによって測定・監視しています。

全社を挙げて品質マネジメントシステムの国際標準化規格「ISO9001」を取得している全農サイロ。今後も、保管による確実な品質管理のもと、飼料原料となる穀物の安全を守り、日本の食をサイロロジスティクスの面から支えていきます。次回はいいよ、配合飼料の生産へと続きます。

